

ジブチ月例報告 (2025年1月)

在ジブチ日本国大使館

【外政】

● 1月15日、パキスタンのハミッド (Hamid Asghar Khan) 外務次官補 (アフリカ部門) とジブチのアリ・ハッサン外務次官は二国間政策協議を立ち上げる覚書の署名を行った。同覚書は、包括的かつ永続的なパートナーシップを構築するという共通の野心を象徴するものである。両代表団は、二国間及び多国間協力の現状を称賛し、今回の調印を歴史的な瞬間と表現した。「貿易と投資がこの協力の柱となる」と両代表は強調し、協力分野を政治、経済、防衛、安全保障などの分野にも広げることを約束した。

【経済・開発】

● 1月7日、オマーン民間航空庁 (CAA) のナイフ (Nayef Ali Al Abri) 長官がジブチを訪問し、戦略的な空運協力を強化するための二国間協定に署名した。この協定により地域の連結性が向上し、商業・観光・運輸分野の活動の活発化が期待される。

● 1月8日、サウジアラビアの航空会社 Flynas がジッダー・ジブチ間の航空路線の運航を開始した。週3便が運航されることとなる。

● 1月14日、アブダビで開催された国際再生可能エネルギー機関 (IRENA) 第15回総会にヨニス・エネルギー大臣が出席し、同大臣は「アフリカのエネルギー転換とグリーン産業化の加速」と題された大臣レベルの円卓会議にスピーカーとして登壇した。同大臣は、60メガワット規模のグベ風力発電所の運転開始や、25メガワット規模のグラン・バラ太陽光発電所の建設プロジェクト等を紹介するとともに、ジブチで実施された大胆な構造改革 (独立系電力事業者法の採択、PPP 法、ビジネス発展に資する投資法の導入など) の概要を説明した。

● 1月15日、サウジアラビア産業鉱物資源省がリヤドで開催した「鉱物に関する一般合意に向けて」をテーマとする第4回未来鉱物フォーラム (FMF 25) にヨニス・エネルギー大臣が出席した。同大臣は、ジブチにおいてほとんど未開発の重要な鉱業の可能性を想起しつつ、国家鉱業部門の開発を最重要視していることを説明した。同大臣はさらに、民間部門を鉱業開発戦略の中心に据えることで、合理的で、経済的・財政的に実行可能で、社会的責任があり、環境を尊重する鉱業を選択すると述べ、事業開発を助長し、民間投資家に有利な環境を作り出すために近年実施された多くの経済構造改革を説明しつつ、ジブチへの投資を呼びかけた。

● 1月16日、FMF 25に出席中のヨニス・エネルギー大臣とサウジアラビアの

バンダル産業・鉱物資源大臣は、工業部門開発に関するジブチ・サウジアラビア協力協定の署名を行った。同協定は、平等・相互尊重・互恵の原則に基づき、共同プロジェクトを開発・推進するため、天然資源・鉱業分野における両国間の協力の一般的枠組みを確立することを目的としたものである。

●ゲレ大統領は、1月27日から28日までタンザニアのダル・エス・サラームで開催されたアフリカ・エネルギーサミットに参加した。同サミットでは、アフリカ大陸におけるエネルギー格差を解消することを目的としたイニシアティブである「ミッション300」への支援を求める嘆願が行われた。ゲレ大統領は演説の中で「我々は大規模な構造改革を実施し、官民パートナーシップを確立し、電力市場を自由化し、独立した発電事業者を設立した」と述べ、「ジブチのエネルギー供給の85%は再生可能エネルギーによるものである。」と付け加えた。またすべての国に奉仕し、アプローチの多様性を認め、戦略的課題に適応する国際秩序の発展を呼びかけた。

【保健・衛生・社会】

●1月11日、ゲレ大統領はアリ・サビエで2025年版国家連帯週間の開始式典を主宰した。同式典には、大統領夫人、アブドゥルカデル首相、ジブチ女性連合（UNFD）のカドラ会長等が参加し、ゲレ大統領はスピーチにおいて、主に社会問題・連帯省が行う社会開発プロジェクト（貧困対策、マイクロファイナンス・ツールの開発、内陸部の2,500名以上の大学生への支援等）を紹介した。

●1月17日、ジブチ柔道連盟のファイサル（Faissal Abdourahman A. Raguib）会長は、現職であるAU柔道連盟の教育・指導局長のポストに2025 - 2028年の任期で再選された。

【軍事・治安】

●1月5日、国家憲兵隊は創設48周年記念式典を開催し、アブドゥルカデル首相、ディレイタ国民議会議長、ブルハン国防大臣、ハッサン・サイード治安庁長官、その他各国外交団及び各国駐留軍が参加した。日本大使館からは、大島臨時代理大使が出席した。式典において、ザッカリア統合参謀総長は「国家憲兵隊の責任が大きくなっていることは、共和国大統領が国家憲兵隊に寄せる揺るぎない信頼の証である。」と発言した。

●1月29日、ルワンダ・キガリにおいて、ジブチ・ルワンダ両国家警察は、両国の安全保障協力の強化を目的とした覚書に署名した。この協力協定は、テロリズム、麻薬取引、国際犯罪との戦い等、多くの戦略的分野をカバーしている。また、情報や専門知識の交換、両国の警察能力を高めるための訓練プログラムも提供される。

●1月30日、ジブチ軍は、エチオピア国境から6 kmに位置する Addorta において

テロリストに対するドローン攻撃を実施し、8人のテロリストを無力化した。この軍事作戦により民間人にも死傷者が出ており、ジブチ政府は本作戦の検証と被害者家族の支援にあたっている。

【日本関係】

- 1月12日、日本がWHOを通じて供与したマラリア対策のための蚊帳及び殺虫剤の引渡式が開催され、大島臨時代理大使が出席した。
- 1月14日、日本が支援したUNODC広域案件「自由で開かれたインド太平洋に向けた海上安全保障と海洋における法の支配の強化」を通じて実施される海洋安保に関するセミナーの開始式がDRTCにて開催され、大島臨代理大使が出席した。
- 1月29日、原大使は、日本が支援したIMO案件「ジブチ沿岸警備隊の海上国境の監視及び捜索救助活動の能力強化」を通じて供与された機材を活用し、海上保安庁の支援の下で実施したジブチ沿岸警備隊の救助訓練を視察した。
- 1月29日、原大使は、ODA事業でジブチ・タジュラの浮棧橋整備に携わった日本港湾コンサルタントと五洋建設の幹部と意見交換を実施した。
- 1月30日、原大使は、アブドゥルカデル首相他多数の閣僚とともに、日本が支援して整備したジブチと北部地域を結ぶフェリーと浮棧橋の引渡し式に出席した。

(了)